

アカデミア・アニマリウム 屠体給餌プロジェクト報告会
講演スケジュール

2023年5月20日（土）

No.	時間	時間配分	所属・肩書	発表者	演題
1	13:00-13:25	15分+質疑10分	千葉県動物公園 教育普及啓発員	平田 絢子	千葉県動物公園の屠体給餌プロジェクト
2	13:25-14:20	45分+質疑10分	日本大学 生物資源科学部 動物学科 教授	細谷 忠嗣	捕獲個体を用いた屠体給餌：動物園における動物福祉と地域の獣害問題を結びつけ、環境教育への波及を目指す取り組み
3	14:20-15:00	30分+質疑10分	千葉県動物公園 動物研究員	中山 侑	(研究報告) 屠体肉の栄養評価
4	15:00-15:30	20分+質疑10分	東邦大学大学院理学研究科 修士課程1年 東邦大学理学部生物学科 准教授	杉 萌梨 井上 英治	(研究報告) プチハイエナにおける屠体給餌が夜間の行動に及ぼす影響
5	15:30-16:00	30分	1008株式会社 代表取締役 千葉県動物公園 園長	辻榮 亮 鎗木 一誠	2日目セッションへのプロローグ～ 1008株代表辻榮様と鎗木園長のトークセッション

2023年5月21日（日）

No.	時間	時間配分	所属・肩書	発表者	演題
1	10:30-11:00	20分+質疑10分	千葉県環境局 環境保全部 環境保全課 主査	町田 啓	千葉県における有害鳥獣被害（生活被害）の実態と対策
2	11:00-11:30	20分+質疑10分	千葉県経済農政局 農政部 農政センター 農業経営支援課 課長補佐	大谷 直樹	野生鳥獣による農作物被害を減らすための対策
3	12:30-13:30	50分+質疑10分	猟師工房 代表	原田 祐介	命の授業
4	13:40-14:40	50分+質疑10分	館山ジビエセンター 合同会社アルコ	沖 浩志	持続可能な環境利用としてのジビエ
5	14:50-15:50	50分+質疑10分	シンノメラボ 安房野生獣革ラボ	大阪谷 未久	循環を実現する最後のピース「チバレザー」

原田 祐介 猟師工房 代表	1972年埼玉県生まれ。高校卒業後、外資系アパレルメーカーに就職。2004年に中学校の同窓会で久しぶりに会った友人に誘われ猟犬の訓練に参加する。山中に放った猟犬が吠えながらツキノワグマの親子を追いかけて目の前を通過し、そのセンセーショナルさに狩猟の魅力にとりつかれる。2005年に狩猟免許と猟銃空気銃所持許可を取得し、猟師の世界にどっぷりと漬かり、2013年に残りの人生を職業猟師として生きる決意を固める。山を知るために秩父にある林業会社に働き、同時に埼玉県飯能市に工房を開設。2015年、工房を『猟師工房』とし、狩猟やジビエに関わるさまざまな取り組みに着手。2019年には獣害被害が深刻な千葉県君津市の廃校(旧香木原小学校)を借り受け『猟師工房ランド』をオープンする。監修書籍に「これからはじめる狩猟入門(ナツメ社)」著書に「週末猟師」(徳間書店)がある。
------------------	---

大阪谷 未久 安房野生獣革ラボ代表	自然豊かな里山が広がる千葉県南房総と、伝統的なものづくりのまち東京都墨田区。2つの地域を軸に活動しています。南房総では獣害対策や環境調査のコンサルタント会社にて、駆除された野生動物の活用に従事。特に、ジビエの精肉過程において産業廃棄物となる皮や骨の活用率を上げることを目指し、毛皮や革小物、アーティストとコラボしたジビエアートなどの製作や発信を行っています。 現在は、墨田区両国の100年以上革小物製品を製作している伝統的な革小物製作会社『東屋』のもとで業界の基礎を学ぶために修行し、ジビエレザーの製品化を進めています。
----------------------	---

沖 浩志 合同会社アルコ代表。	1983年2月仙台市生まれ。生き物に関わる専門学校を卒業後、国立公園や自然環境調査会社での仕事を経て、2018年に館山市の地域おこし協力隊（獣害対策支援）に従事。獣害対策の現場で駆除され棄てられる野生動物の活用のためにジビエを普及し、2021年12月から館山市の建設したジビエ加工処理施設の運営を行う。野生動物の生きた背景をジビエに乗せて発信を行い、肉だけではなく魅力を消費者へ届けることを信条にしている。
--------------------	---

辻榮 亮 1008株式会社 代表取締役	2010年、葛飾区にて「総天然素材革工房革榮」を設立。究極の循環型レザープロダクト「土に還る革製品」を世に送り出す。2019年より千葉県睦沢町へ移住。敷地内PV&V2Hを運用し再生エネルギー100%操業を達成し「再生エネルギー宣言REAction」へ加盟。2020年には県内の獣害残渣を有効活用すべく「チバレザー」へと生まれ変わらせる事業に着手。 事業の一環として一般家庭への再生エネルギーや関連機器、EV、の導入・試算も行う。2021年には災害時のEV・V2H有効活用のための住民連携の仕組み構築など様々な主体を巻き込んだ活動も展開。こうした自身の取組みを広げるため、千葉に特化した地域商社にすべく同年8月1008（せんのは）株式会社を設立。
---------------------------	---